

受 付 番 号	202416		
許 可 番 号	大歯医倫 第 111379 号		
研究課題名	女子高校生が月経障害のセルフケアから始めるプレコンセプションケアプログラムの構築		
研究責任者	福山 智子	申 請 者	福山 智子
研究終了日	2028 年 3 月 31 日		
所 属	看護学部 母性看護学領域	所 属	看護学部 母性看護学領域
職 名	教授	職 名	教授

申請の概要

本研究の目的は、女子高校生が月経に関する問題のセルフケア経験を通してヘルスリテラシーを高め、プレコンセプションケアの知識を習得し、プレコンセプションケアの行動を始めることを目標とした、母親参加型のプレコンセプションケアプログラムの構築である。本研究では、女子高校生とその母親を対象に、日本の母子保健の課題に沿った日本版プレコンセプションケアの概念を基盤として開発した教育プログラムを実施して検証する。日本版プレコンセプションとは、『前思春期から生殖可能年齢にあるすべての人々の身体的、心理的および社会的な健康の保持増進』と定義され、前思春期から、男女が妊娠を望む・望まないにかかわらず、自分自身のひいては次世代の健康増進を目的としたものである。日本版プレコンセプションケアでは、健康な思春期女性のプレコンセプションケアを阻害するリスク因子として、＜月経の問題＞、＜低ヘルスリテラシー＞、＜痩せ・低栄養＞、＜出産年齢の上昇に伴う不妊症＞、＜性感染症＞、＜ワクチン未接種＞、＜葉酸摂取不足＞などが報告されている。本研究では、女子高校生が教育プログラムによってこれらリスク因子を低減できたかどうか、非ランダム化比較試験で測定する。介入群の高校生は2回の対面講義への参加、高校生と母親はオリジナル動画と冊子の視聴・閲覧、母娘でコミュニケーションを行い、高校生は全部で3回、母親は全部で2回の質問紙調査に協力する。比較群は教育プログラムに参加せず、介入群と同じスケジュールで調査に協力する。

我が国のプレコンセプションケアの概念は2019年と新しいため、健康な思春期を対象としたエビデンスのある研究はない。したがって、本研究は思春期の者に対するプレコンセプションケアの先駆的な位置づけになると確信している。